



物部川

☆ 教育で伝え続けていくこと

例年以上に暑い夏が続いています。立秋の声とともに、夜ともなれば気の早い秋の虫の声がどこからともなく聞こえてくる、という風物詩ももはや記憶の中の出来事となってしまったようです。

あまりの暑さに、朝顔も悲鳴を上げ鉢のうち一鉢はもう蕾をつけるのをやめてしまいました。気候の変動を身近に感じる昨今において、教育の果たす役割の重要性はますます強くなっています。

日本の8月は、戦争によって犠牲となった多くの御霊に鎮魂の祈りを捧げ、平和を希求し続けることへの思いを新たにす月です。

戦争を直接経験していない戦後世代がほとんどを占め、戦争の悲惨さをご自身の体験を通して語り継いでくださる方々がご高齢となるなか、平和な社会を創ること維持することの重要性を子供たちにしっかりと伝えていかななくてはなりません。

戦後77年。この夏も、多くの特集番組が放送されました。あらゆる機会をとらえて、自分事として学んでほしいと強く願っています。

昨年度11月に開催された香美市中学生弁論大会において、発表された大栃中学校3年生(現在)山中香澄さんの作文の一部を紹介します。

『私は時々、戦争のことについて考えることがあります。夏休みに入る前、学校で沖縄戦に関するDVDを視聴しました。沖縄戦では、私たちと同じ年代の少年たちが、戦場で戦っている映像でした。特に印象に残ったことは、ある少年が、爆弾を背負って相手軍の戦車に飛び移り、亡くなってしまったことです。相手に勝つことしか考えず、少年は自分の命を犠牲にすることに、抵抗することもできなかったのだと思います。

今では、考えられない話ですが、戦争中は、常に生と死が隣り合わせの状態だったということを知りました。生きるのがつらいから、死んだほうがましという人がいたことに心が痛みました。

戦争と人権について考える中で、今ある幸せが当然ではないことや、平和に過ごせることのありがたさを感じるようになりました。』

☆ 7月21日 初任者の先生方や香美市社会科副読本編集委員の先生方21名のみなさんと一緒に香美市フィールドワークに参加しました



物部町 仙頭大橋

コロナ禍の中、香美市に勤務をしながら、研修以外で顔を合わすことの少ない先生方に、香美市のことを知っていただき、交流する機会を提供したいと考え、本年度から始めた取組です。

午前8時半に私たちを乗せたバスが、土佐山田スタジアムを出発しました。まず向かったのは、物部町にある仙頭大橋です。

今年度は、ここからスタートし、香北町大川上美良布神社、土佐山田町にある山田堰へと物部川を下って、最後は坂田信夫商店の生姜工場を見学しました。

講師の岡崎和夫先生のガイドを楽しませていただきながら、要所要所でバスを降り現地を散策し、新鮮で清々しい香美市の風を感じた一日でした。大川上美良布神社では甲藤宮司様に詳しくご案内頂きました。驚きの連続でした。大変お世話になりました。工場見学までさせていただいた坂田信夫商店様ご協力ありがとうございました。

☆新たな時代の教育に挑戦する「香美市よってたかって教育」

子供を取り巻く社会の状況が急速に変化する時代にあって、学校教育には、①子供たちが様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決していくことや、②様々な情報を見極め知識の概念的な理解を実現し情報を再構成するなどして新たな価値につなげていくこと、③複雑な状況変化の中で目的を再構築することができるようにすることが求められています。

香美市においても、これまでの取り組みを大切にしながら、新たな時代の教育の実現に向け、更なる充実・発展を目指し、「学びの在り方の変革」に取り組まなければなりません。

まちはづくりは人づくり

よってたかって教育
三種の神器

新たな時代の教育に挑戦する
香美市よってたかって教育

- 探究の育ちと学びでつなぐ小中一貫教育（学ぶ！）
- コミュニティ・スクールの推進で地域とともにある学校づくり（つながる！）
- 子どものなりたい自分の実現を後押しするキャリア教育（未来を創る！）

郷土を愛し、未来を創る人づくり

【新たな時代の教育に挑戦する香美市】

本市では、学校・地域と共に香美市よってたかって教育「三種の神器」により、これまでの取組を整理し、アップデートを繰り返しながら、「学びの在り方の変革」の仕組みづくりを進めています。

「三種の神器」とは、一つ目が、「探究の学びと育ちでつなぐ小中一貫教育」、二つ目が「コミュニティ・スクールの推進で地域とともにある学校づくり」、三つ目は、「子供のなりたい自分を後押しするキャリア教育」です。この3つの視点をチーム学校で共有して取り組むことで、すべての子供が安心して過ごせる空間、新たな学びに挑戦できる教育環境を創ることができると考えています。

もちろん、これらは関連し合って展開されます。なぜなら、香美市の小中一貫教育は、探究の学びを柱とする「小中一貫型コミュニティ・スクールの推進」により取り組まれており、そのゴールは、キャリア形成の目標でもある「郷土を愛し未来を拓く人づくり」にあるからです。キーワードは、「学ぶ」「つながる」「未来を創る」です。三種の神器にはそれぞれに、3つのキーワードをテーマに細やかな仕組みが用意されています。

1学期の学校訪問で実感した子供たちの学びの進化は、各校の「よってたかって教育」の取組過程の中で見えてきた子供たちの成長の現れであるにとらえています。多様化する教育課題の改善を図るためにも、学校教育に求められている役割や使命を共有し、しっかりと取組を進めていき

たいと思います。